太成学院大学高等学校
校長　北野　英敏

２０２５年度　太成学院大学高等学校　学校評価

１　めざす学校像

建学の精神「教育は徳なり」を礎として、徳育を基盤に置いた教育を実践し、学力の定着のみにとどまらず、生徒の徳の形成、人格の形成をめざし、知識教養を身につけ、感性を高め、向上心をもち、思いやりをもって社会に貢献できる人間を育成する。

○　すべての人を尊重できる心を育成します。
○　自ら考え、新しいアイディアを生み出せる創案力を身につけさせます。
○　多様な人たちとともに社会に貢献できる協働力を養成します。
○　基礎学力の補充に留意しながら、学力の充実、伸張をはかります。
○　能力適性に応じた進路指導を親切に行い、生涯学習を志向させます。

２　中期的目標

(1) 人間力の育成を図る教育の推進を行う。
① 人とのつながりの第一歩である挨拶の大切さを教員自ら自覚して行動し、生徒に奨励する。
② 週刊目標・身だしなみ指導を徹底する。
③ 近隣・教育後援会・校友会との交流を行う。

(2)　基礎学力の習得を図り、進路指導に活かす。
①　基礎学力の向上に努める。
②　生徒の適正・能力に応じた進路指導を行う。

(3)　親切・丁寧な生活指導を徹底する。
①　いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。
②　学習環境の整備を行う。
③　特別教育活動の促進を行う。

(4)　教員の資質向上をめざす。
①　学年・学級間に差のない指導を行う。
②　事務処理・個人情報管理の徹底をする。
③　教員資質向上のための啓蒙活動を充実させる。

３　アンケート（生徒・保護者・外部）の結果と分析

評価方法：生徒・保護者・外部アンケート

（４段階評価：A⇒よくあてはまる/満足、B⇒ほぼあてはまる/やや満足、
C⇒あまりあてはまらない/やや不満、D⇒あてはまらない/不満）

目標値：A・B 評価合計で７０％以上

（生徒アンケートの分析）

○　普通科特進セレクトコース

分析１２項目中１１項目にある（「学校生活について（満足・やや満足）」（１００％）、「カリキュラムについて（満足・やや満足）」（７１％）、「授業について」（１００％）、「欠席・遅刻指導や授業管理が徹底している」（５７％）、「学校行事が活発である」（８６％）、「教師が親身になって相談してくれる」（８６％）、「環境が整備されている」（５７％）、「校則が遵守できている」（１００％）、「進路指導が行き届いている」（５７％）、「クラスが楽しい」（８６％）、「学力が向上していると実感している」（８６％）であったことから、特進セレクトコース全体としては、生徒にも高評価を得ていると捉えて良いと分析するが、進路指導面においては５７％、環境が整備されているについても５７％の評価しか得られなかったことについては、今後きめ細やかな進路指導の拡充や環境整備についても改善が必要であると思われる。

○　普通科ライフデザインコース

分析１２項目中１２項目にある（「学校生活について（満足・やや満足）」（９２％）、「カリキュラムについて（満足・やや満足）」（８５％）、「授業について」（８５％）、「欠席・遅刻指導や授業管理が徹底している」（８５％）、「学校行事が活発である」（９２％）、「教師が親身になって相談してくれる」（６９％）、「環境が整備されている」（１００％）、「校則が遵守できている」（１００％）、「進路指導が行き届いている」（７７％）、「クラスが楽しい」（８５％）、「ライフデザイン講座は充実している」（１００％）「自分の将来を考えて行動できている」（７０％）であったことから、ライフデザインコース全体としては、生徒にも高評価を得ていると捉えて良いと分析する。

特に、「学校生活が充実している」、「環境が整備されている」、「ライフデザイン講座は充実している」、「校則が遵守できている」の４点が高評価であることは、大部分の生徒が学校生活を安心して送っており、充実していることと考えられる。

しかし、目標値を達成はしつつも「教師が親身になって相談してくれる」（６９％）について、我々教職員が多忙であっても生徒たちから相談があった場合には耳を傾けて対応できるように取り組んでいく。また、欠席・遅刻者が多いのが現状です。生活規律や学習規律など基本的生活習慣の確立に力を入れなければならないと考えられる。

○　普通科製菓パティスリーコース

分析１２項目中１２項目にある（「学校生活について（満足・やや満足）」（８７%）、「カリキュラムについて（満足・やや満足）」（９３%）、「授業について」（１００%）、「欠席・遅刻指導や授業管理が徹底している」（８０%）、「学校行事が活発である」（７３%）、「教師が親身になって相談してくれる」（８６%）、「環境が整備されている」（８７%）、「校則が遵守できている」（９３%）、「進路指導が行き届いている」（８０%）、「クラスが楽しい」（８７%）、「製菓実習は充実している」（１００%）「自分の将来を考えて行動できている」（８０%）であったことから、製菓パティスリーコースコース全体としては、生徒にも高評価を得ていると捉えて良いと分析する。特に、「授業について」、「製菓実習が充実している」の２点が１００%であることは、生徒が学校生活を安心して送っており、充実していることと考えられる。

しかし、目標値を達成はしつつも「学校行事が活発である」（７３%）について、さらに学校行事について改善をしなければならない考え、今後取り組んでいく。

○　スポーツ科

分析１２項目中１２項目にある（「学校生活について（満足・やや満足）」（９４%）、「カリキュラムについて（満足・やや満足）」（１００%）、「授業について」（７９%）、「欠席・遅刻指導や授業管理が徹底している」（７９%）、「学校行事が活発である」（８６%）、「教師が親身になって相談してくれる」（９３%）、「環境が整備されている」（１００%）、「校則が遵守できている」（９３%）、「進路指導が行き届いている」（８６%）、「クラスが楽しい」（９３%）、「部活動の競技力向上を実感していますか。（８６%）」、「自分の将来を考えて行動できている」（８６%）であったことから、スポーツ科全体としては、生徒にも高評価を得ていると捉えて良いと分析する。特に、「カリキュラムについて」、「環境が整備されている」の 2 点が 100%であることは、生徒が学校生活を安心して送っており、充実していることと考えられる。

しかし、目標値を概ね達成はしつつも「授業について」（７９%）について、さらに充実した授業展開ができるように改善をしなければならないと考え、今後取り組んでいく。

（保護者アンケートの分析）

目標値を達成できたものが、１６項目中１４項目（「学校の教育方針や教育目標に沿った教育をしている」（８８%）、「学校全体の雰囲気が良い」（８７%）、「学校行事（文化祭など）について実施日の連絡がある」（９２%）、「校外でのマナー指導が徹底されている」（７０%）、「生徒は学校が楽しそうだ」（８９%）、「授業中、先生の指示が行き届いている（７７%）、「先生方は学習のフォローをよくしてくれる」（７６%）、「学校行事が充実している」（８０%）、「部活動が充実している」（８７%）、「部活動においてクラブ顧問は熱心に指導している」（８８%）、「生徒の悩みに対して丁寧に対応している」（８３%）、「担任の先生はよく生徒の面倒を見てくれる」（８６%）、「進路指導が充実している」（７５%）、「お子様は他者の意見を聞くことができるようになったと感じますか」（８２%）

全体としては、保護者の方々に高評価をしていただいていると捉えて良いと分析する。
ただし、目標値を達成できなかったものが２項目あった。「学習指導が充実しており、学力向上が実感できている」（６１％）、「お子様は自分の将来を見据えて行動できるようになりましたか」（６３％）であった。１００％に到達できるようにさらに改善策を講じ目標達成できるように、今後取り組んでいく。また、選択正式のアンケートを昨年度より１つ設定しました。「学校のイメージと改善問題として：本校の特徴としてどれに当てはまりますか」①子どもたちがいきいきと学習や部活動に励んでいる学校である（３１％）、②主体性を養ってくれる学校である（１２％）、③個性を引き出し伸ばしてくれる学校である（１７％）、④ひとりひとりを大切にしてくれる学校である（１７％）、⑤学習と部活動の両立を図ってくれる学校である（１７％）であった。バランスの取れた学校となるよう継続していく。

（外部アンケートの分析）
目標値を達成できたものが、１０項目中１０項目全部達成することができました。「学校の教育方針や教育目標に沿った教育をしている」（１００％）、「学校全体の雰囲気が良い」（１００％）、「学校行事について実施日の連絡がある」（１００％）、「通学路で生徒が近隣の方に迷惑を掛けないように指導されている」（１００％）、「普段の授業中にうるさく騒いだり、校外に出て近隣の方に迷惑を掛けないように指導されている」（１００％）、「生徒たちが通学路の清掃等、奉仕活動をしている」（１００％）、「文化祭でマイクを使う時は事前に連絡がある」（１００％）「学校行事で近隣の方が参加できるものがある」（１００％）、「生徒たちがよく挨拶をする」（１００％）、「苦情や意見に対してすぐに対応してくれる」（１００％）など近隣の方々からも本校の教育活動に対して高評価をしていただいていると思われる。
しかし、油断をしていると１００％から一気にマイナスになってしまいがちであるため、今後も気を引き締めて重点的に取り組んで行きたい。

４　本年度の取組内容と教員の自己評価

◎学校評価（内部評価：各教員）

（５段階評価：S⇒達成率１００％、A⇒達成率８０％以上１００％未満、
B⇒達成率６０％以上８０％未満、C⇒達成率４０％以上６０％未満、
D 達成率４０%未満）

評価指標：S・Ａ・Ｂ評価合計での達成率を用いる。

中期的目標：（１）人間力の育成を図る教育の推進を行う。

①今年度の重点目標：
人とのつながりの第一歩である挨拶の大切さを教員自ら自覚して行動し、生徒に奨励する。
具体的な取組：週刊目標の重点目標に位置づけ、日々啓発指導を行う。
評価指標：自己評価による達成度８０％以上
結果：①９６％　②８３％
自己評価：
２項目とも評価指標を上回った。①「生徒に対して積極的に挨拶を行ったか」②「生徒に挨拶の啓発指導を行ったか」は、今年度は、昨年度の９８％という結果より若干下回ったが、高評価であると判断できる。今後も啓発指導に努めていく。

②今年度の重点目標：近隣・教育後援会・校友会との交流を行う。
具体的な取組：近隣補導・近隣清掃・教育後援会や校友会との交流を図る。
評価指標：自己評価による達成度７０％以上
結果：①５３％　②５０％　③３６％
自己評価：
今年度は全３項目で評価指標を達成できなかった。①「近隣補導など積極的に協力したか」②「近隣清掃などを含み近隣との交流を図ったか」③「教育後援会･校友会との交流」全教職員が一丸となって、近隣の方々への声掛けなどできるところから実施していきたい。

中期的目標：(2)　基礎学力の習得を図り、進路指導に活かす。

①今年度の重点目標：基礎学力向上に努める。
具体的な取組:シラバスに則った授業を展開しテスト等を通じて生徒の理解を確認する。
評価指標：自己評価による達成度８０％以上
結果：①９８％　②８７％　③６０％
自己評価：
３項目において、1 項目のみ評価指標を達成することができた。①基礎学力向上に努める。(1.「50 分授業の励行を行ったか」) ②基礎学力向上に努める。(2.「シラバスに沿った学習を展開したか」③基礎学力向上に努める。(3.「授業に対する生徒の理解度は十分か」、特に③授業に対する生徒の理解度について、わかりやすい授業、丁寧な授業を教員ひとり一人が自意識を持ち努めるべきであると再認識させられる結果である。今後も継続して努力していく。

②今年度の重点目標：生徒の適正・能力に応じた進路指導を行う。
具体的な取組：生徒の学力を把握して保護者・生徒が満足できる進路指導を実践する。
評価指標：自己評価による達成度８０％以上
結果：①８０％　②７５％　③７７％
自己評価：
１項目のみ達成度８０％を達成できなかった。①生徒の能力に応じた進路指導（1.「進路指導は適切であったか」②生徒の能力に応じた進路指導（2.「生徒の学力把握は性格であったか」③生徒の能力に応じた進路指導（3.「授業・補習は計画通り進捗したか」しかしながら、ほぼ達成度の８０％には近似した数字であると思われる。また、今年度の学校斡旋による就職率は１００％であった。これで学校斡旋の就職率は１２年連続１００％を達成している。

中期的目標：（3） 親切・丁寧な生活指導を徹底する。

①今年度の重点目標：いじめの未然防止、早期発見、早期指導に努める。
具体的な取組：問題行動の未然防止・早期発見・早期指導を実践する。
評価指標：自己評価による達成度９０％以上
結果：①８９％　②８７％
自己評価：
２項目全てにおいて達成度９０％を達成できなかった。①いじめ根絶に向けた指導を行う（1.「問題行動を適切に処置したか」②いじめ根絶に向けた指導を行う（2.「生徒・保護者から相談に対処できたか」しかしながら、達成度９０％に近似した数字である。問題行動の聞き取りの際に、当該生徒が欠席等をしていて時間が伸び伸びになってしまった。今後も油断することなく真摯な姿勢で取り組んでいくことが大切である。

②今年度の重点目標：学習環境の整備を行う。
具体的な取組：
現時点で活用できる ICT 環境を充分に利用する。また、教室や部署の美化に努める。
生徒・保護者への連絡は漏れの無いようにする。
評価指標：自己評価による達成度７０％以上
結果：①６０％　②８３％　③７８％
自己評価：
③「生徒・保護者との連絡は十分であったか」が７８％であった。今後も継続したい。
②「教室・部署の美化に努めた」ついては８３％であった。①「ICT 環境の整備・ICT 教育を活用」ついては６０％と低迷な状態であるが、昨年度の３６％よりは良くなっていると思われる。ICT 環境については、可能なところから進めていくが、現時点で利用できるものを最大限に利用していきたい。

③今年度の重点目標：特別教育活動の促進を行う。
具体的な取組：
クラブ活動への参加を呼び掛けると同時に、各クラブの実績向上をめざす。また、学校行事の充実をめざす。
評価指標：自己評価による達成度８０%以上
結果：①７９%　②８７%　③８２%
自己評価：
３項目中 2 項目評価指標を達成できた。特別教育活動の②「学校行事に積極的に参加・協力したか」③「学校行事の際の生徒指導は適切であったか」の 2 項目については、達成度８０%を達成できたが、①「クラブ活動の活性化に向けた努力をしたか」については、やや低迷な状況であった。運動部・文化部共にクラブ活動の促進に力　　をさらに入れていく必要があるように思える。今後、評価指標を大きく上回るに努力をしていく。

中期的目標：（4） 教員の資質向上をめざす。

①今年度の重点目標：学年・学級間に差のない指導を行う。
具体的な取組：
教職員が、日々の教職員への連絡事項を確認し、生徒にもれなく伝達する。必要な時には、授業中の注意を適切に行う。教材研究を十分に行い研究授業を実施し、各教科の教育力向上に努める。
評価指標：自己評価による達成度８０%以上
結果：①８９%　②８２%　③８１%　④８３%　⑤３２%
自己評価：
５項目中４項目は評価指標を上回ったが、④「各教科内での教材研究は十分であった。しかしながら、⑤「研究授業を行うように努めたか」については、評価指標をかなり下回っている。各教科において、研究授業について早急に改善し取り組むように促す。

②今年度の重点目標：事務処理・個人情報管理の徹底をする。
具体的な取組：
教職員が、日々の教職員への連絡事項を確認する。また、個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、漏洩等が起こらないように未然防止に努める。更に、提出書類に不備がないように努め、各自の机上を常に整理整頓する。
評価指標：自己評価による達成度９０%以上
結果：①９４%　②７１%　③９２%　④８１%
自己評価：
４項目中３項目は評価指標を上回った。しかしながら、②「各自の机上の整理は完全であったか」は、達成度が７１%しかなったことは、我々教員が反省しなければならない点である。①「毎日に連絡事項の確認を行ったか」でも達成度が９４%と高い数字ではある。これらについては後も継続していきたい。

③今年度の重点目標：教員資質向上のための啓蒙活動を充実させる。（募集活動の充実）
具体的な取組：
体験入学や相談会などの募集活動を通じ、全教職員が協力して生徒募集に努力し、本校教職員としての自覚を促し、連帯感を確立する。
評価指標：自己評価による達成度８０％以上
結果：①９３％　②９６％
自己評価：
２項目とも評価指標を上回り、満足のいく結果となったものの気を引き締めてしっかりと考察していきたい。

５　今後の改善点

① カリキュラムや学校生活に関して、満足いただいていない保護者もおられます。今後は時間がかかることではあるが、保護者の方や生徒の意見を多く吸収して、時間を掛けて検討し、可能な箇所から改善を進めていきたい。
② ＩＣＴの活用を進めて行くことについて。２０２３年度から範囲を拡大して運用を開始しましたが、実際はＩＣＴ環境の整備・ネット環境整備について可能なところから１つ１つ進めていき、現時点で利用できるものを最大限に利用していくように努める。
③ 教員の資質向上のためにも、研究授業の実施を大いに進めて行く。
④ ２０２２年度からの学習指導要領の改訂にあたり、各学科・コースにおいて、より充実したカリキュラム編成を行ってきた。今後はその中身と生徒の反応や様子を見て、改善すべき点が無いかを検討していく。
⑤ 英検・漢検、その他の資格取得にさらに努めていく。昨年度より特に英検の受験者が増加傾向にあることは非常に喜ばしいことです。さらに持続させたいと考えている。
⑥ 併設校である太成学院大学との高大連携講座、その他大阪産業大学・大阪国際大学・大阪商業大学、びわこ成蹊スポーツ大学とも高大連携を締結し、進路指導において拡充して、生徒の進路選択の幅を広げる。また、高専連携も拡充していきたい。

６　学校関係者評価

① 生徒アンケート結果より
○　学校運営において
「学校生活が充実している」「環境整備が行われている」「クラスが楽しい」の項目が目標値を達成できていることは、先生方の努力の賜物であると思う。「学校行事が活発である」の項目をさらにバージョンアップし、さらなる学校生活を充実できるように努める。
○　学習指導において
「生徒にあったカリキュラムである」「進路指導が行き届いている」の２項目において、目標値を達成できていることは、素晴らしいことと思う。一方で、「わかりやすい授業

である」が目標値を下回っていることを、単年度の結果で判断することは難しいと思うが、今後、慎重に検討していただきたい。

○　生徒指導において

「生活規律や学習規律など基本的生活習慣の確立に力を入れている」「教員が親身になって相談にのってくれる」の２項目において、目標値を上回っていることは、素晴らしいことと思う。ただし、普通科とスポーツ科では「生活規律：基本的生活習慣」の格差があるのは事実です。今後も継続してこのような格差が生まれないように統一した結果が出るようにしていただきたい。

②　保護者アンケート結果より

○　学校運営において

「学校の施設や設備は満足できる」「学校が出す文書・事務連絡は適切である」が高評価であったことは、今後も努力を継続していただきたい。ただし、若干ではあるが、保護者が共働き家庭も多く、メールに文書添付しても見ておられない保護者もおられるのは事実です。この改善にも今後取り組んでいきたい。「将来を考えた行動選択」など生徒たちが自分で何をどのようにすれば良いのかなどについての項目においては、目標値が高くないことは残念である。生徒たちに将来の目標や夢について語り合い、前に進めて行く。

○　学習指導において

「生徒にあったカリキュラムである」「進路指導が行き届いている」の２項目において、目標値を達成されていることは、素晴らしいことと思う。一方で、「子どもはわかりやすい授業であると言っている」が目標値を下回っていることを、単年度の結果で判断し、改善することは難しいと思うが、今後、慎重に検討していただきたい。

○　生徒指導において

「生活規律や学習規律など基本的生活習慣の確立に力を入れている」「教員が親身になって相談にのってくれる」「校則指導が徹底されている」の全３項目において、目標値を上回っていることは、素晴らしいことと思う。今後も継続してこのような結果が出るようにしていただきたい。

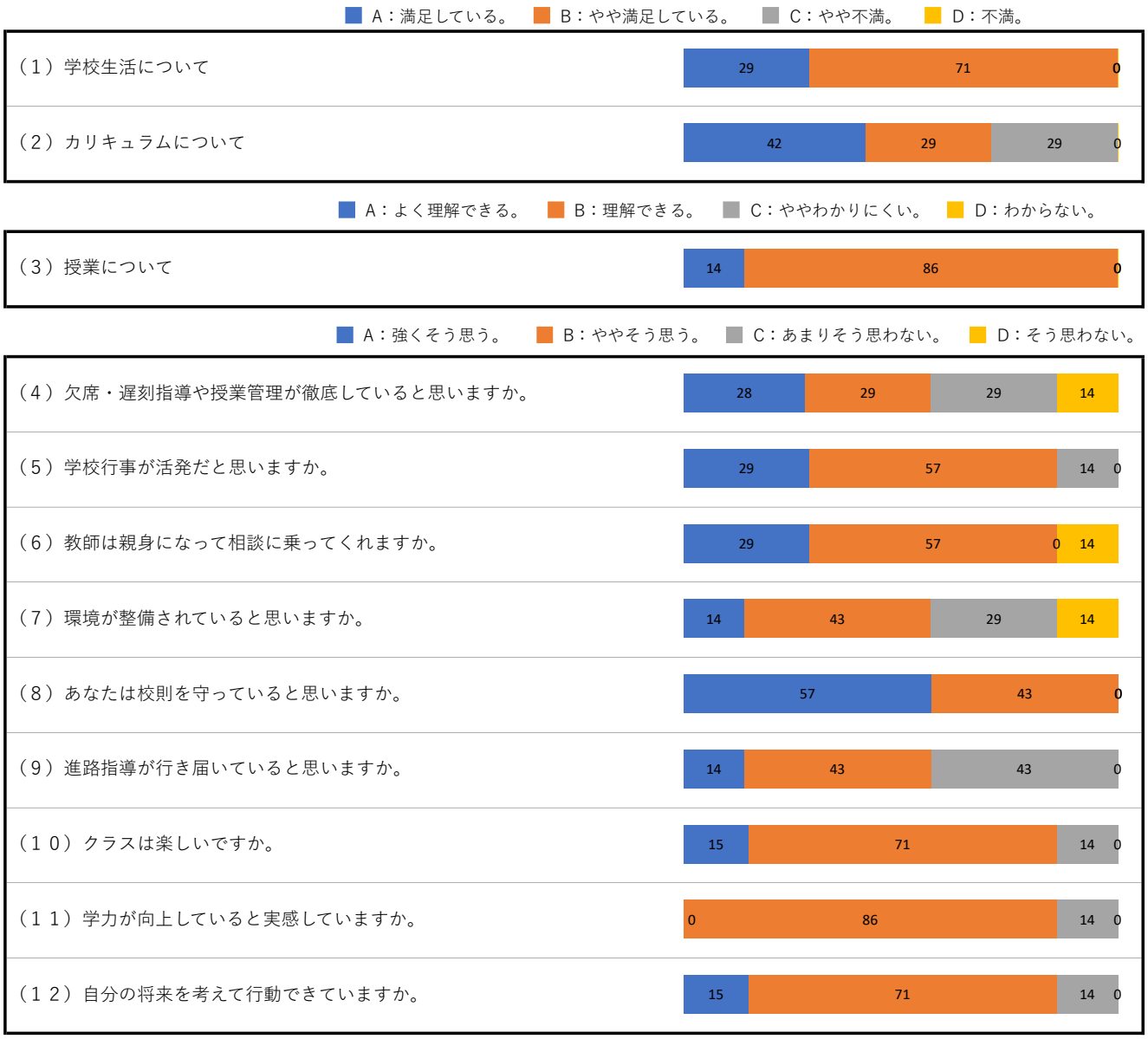
③　内部評価（各教員アンケート）結果より

今後も学習環境の整備や学年・学級間の差のない指導が実施されることを願っている。

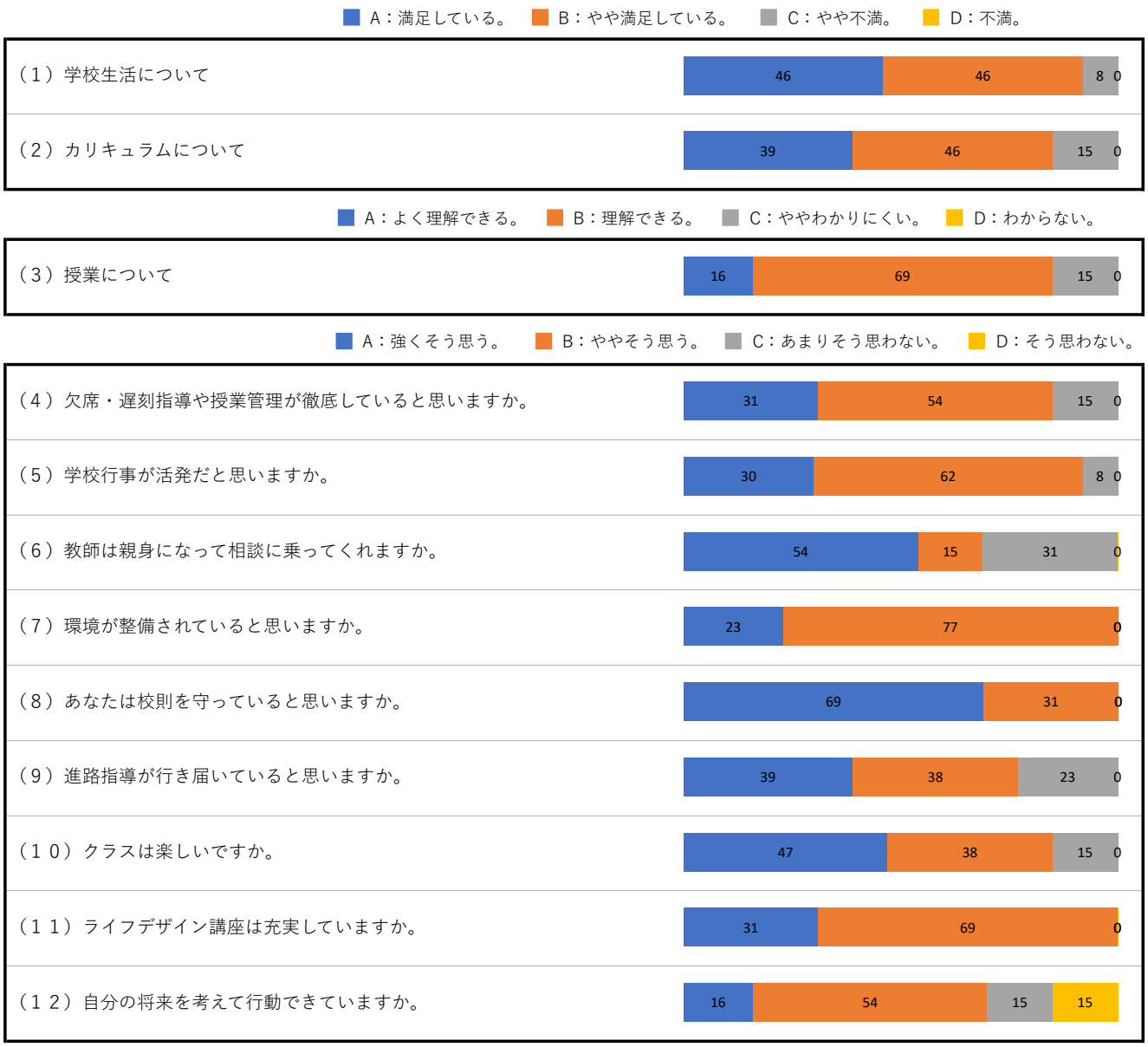
④　その他

「５ 今後の改善点」に対して、今後も学校が真摯に取り組み、改善されることを願っている。

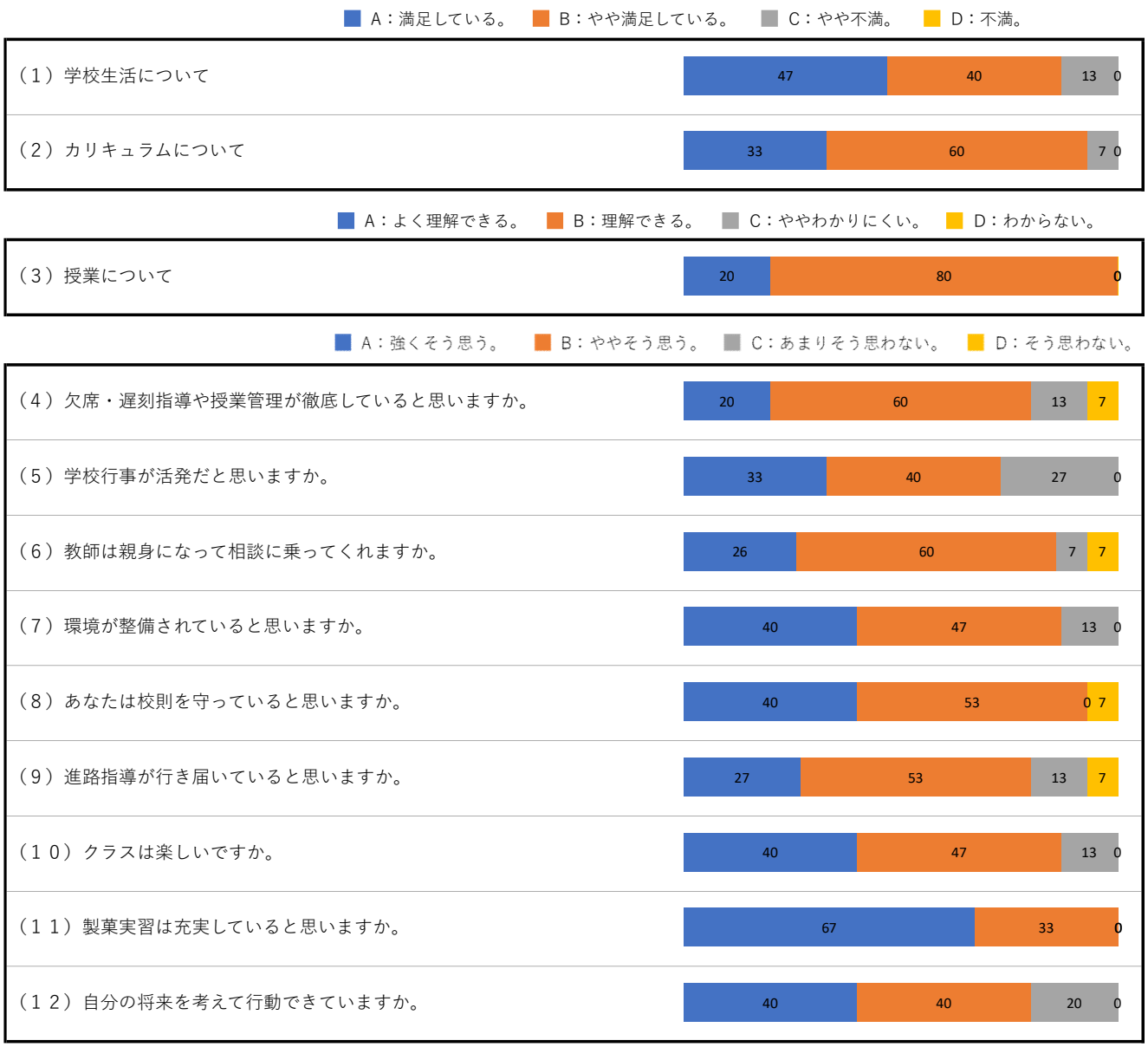
生徒アンケート［２０２５年度アンケート統計（特進セレクトコース）］



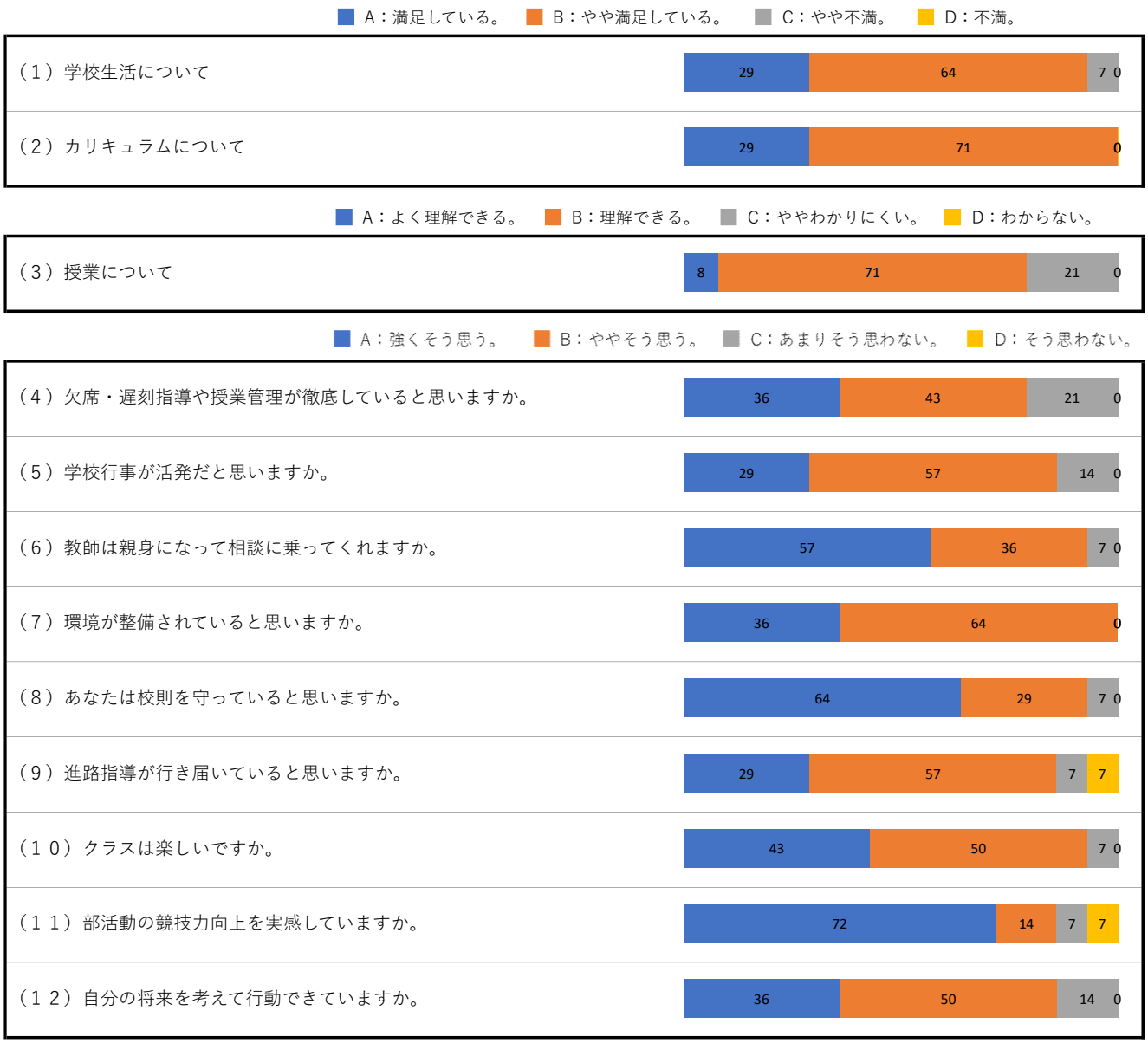
生徒アンケート［２０２５年度アンケート統計（ライフデザインコース）］



生徒アンケート［２０２５年度アンケート統計（製菓パティスリーコース）］



生徒アンケート［２０２５年度アンケート統計（スポーツ科）］



保護者アンケート［２０２５年度アンケート統計］

